

仕合わせの和

第244号

令和4年7. 1
(毎月1日発行)

ぐら
愚痴からは
何も生まれない

住職 谷川寛俊

観音経(第二十五)の中に「若(も)し愚痴多からんに、常に念じて観世音菩薩を恭敬(くぎょう)せば、すなわち痴を離るる事を得ん」と説かれています。

この愚痴とは、人が起こしてはいけない「三毒」(愚(おろか)・怒(いかり)・貪り(むさぼり)の一つです。

ブツブツと不平不満を言ったり、泣き言を言ったりする人に対して用いられる言葉です。辞典で調べると「言っても仕方がない事を言っつて嘆く事」となっています。

しかしそうとは分かっているも言いたいのが凡夫の常です。では何故言いたくなるのか、私達の人生には凡眼では見通す事の出来ないものがあり「宿命」とか「運命」と呼んでいます。

「火の無いところに煙はたたない」ということわざからすると「種を蒔かなければ芽も出ない」とでも言うか、自分に起こりうる事は、必ず過去に原因があると、気づく事が大事なのです。

お釈迦様は、「三世因果の道理に暗きを愚痴と言う」と説かれているところからすると、不平不満が言いたくなる立場に自分があることは、今までの自分の行いによつての事だから、過去の行いの愚かさを人に公表していることが愚痴である、となります。その道理を分かっていたら、自分の過去の愚かさを証明することは無いでしょう。これは愚痴に限らず、怒り、貪りも同様です。

冒頭の「観音経にあるように、観音様にお願(ねが)いしてもこの心を離れしめんとするほど人の幸せにとつて重大な問題なのです。

仏に成る為には(幸せになるには)この様な心掛けをしない、これは起こしてはいけませんよ、と人のあり方、振る舞いが、法華経に説かれています。すでにこのことに気付かれて日頃よく考えている方の中で、ある疑問に行

真成寺ホームページ



玉蓮山 真成寺

編集部 谷川久仁子

TEL・FAX 0765-22-2268

携帯 080-3744-2523

こちらの番号でもお寺につながります。

き着いた人もいらつしやると思います。それは、場所・環境・時代・健康・不健康といった生まれながらに決められている事実の問題です。

過去の自分の愚かさを棚に上げて、今愚痴を吐き、更に未来までも苦しまなければならぬ原因をつくる。愚痴を言い合うことを「畜生談」と呼んで嫌います。仏を志す人であることが、幸福の道であるとしながら、人のレベルにも達しない畜生談。いかに愚かであるか、いかに自分で自分の首をしめるようなものか肝に命じなければ成りません。「自業自得」なのです。

「愚痴」の反対は「自覚」です。因果の理に気付いて悟るわけです。すべて自分に原因があり、その原因を知って取り除く。原因になる道理を知ってそれを起こさない努力をする事が大切なのです。

今、自分はどうなのか、どこにいるのか、それを明らかに示してくれるのが、お題目の力と各々の信仰心です。

